（様式第３号）

令和5年5月8日

議員視察報告書

赤穂市議会
議長　　土遠　孝昌様

派遣議員氏名　　瓢　　敏雄

下記のとおり、視察・調査を行いましたので、報告します。

記

1	実施日	令和5年4月14日（金）
2	調査地または開催地	京都市下京区四条河原町西入真町52 京都高島屋7階グランドホール
3	調査事項または講演会等内容	第52回日本伝統工芸近畿展 （別紙詳細にて）
4	添付書類等	調査表、行程表のほかに実施が確認できる書類等 （対応者の名刺・視察先写真・講演会内容のパンフレット等）

（別紙詳細）

調査項目

第52回日本伝統工芸近畿展

内容

展示品鑑賞

主催者側との懇談

目的

赤穂市では、赤穂緞通を完成させた児島なか氏の生誕200年を祝って、今年の秋に市歴史博物館で古緞通の展示会を計画している。市歴史博物館によれば、その際に過去2回発行した赤穂緞通の図録の在庫が無くなっているので改めて制作するとしている。

赤穂緞通については、技術の伝承だけではなく、伝統工芸産業として存続、発展することを望みたい。そのためには、行政としてどのようなことをすればいいのかを、直接工芸品を見て、主催者側に聞けたらと視察を行った。

所感

赤穂緞通は祇園祭や皇族のお召列車に敷物として用いられたり、高級料亭や旅館で敷かれるなど、高価で一般には馴染みが薄いものとこれまで感じてきた。

今回、日本の伝統工芸品はアートとして、世界でも認められている芸術品であると、作家さんからお聞きし、一般の人々が工芸品を感じる場を提供し続けることが行政の大きな役目ではないかと考えるようになった。

実際、伝統工芸展に行って鑑賞してみると、素人目にも美しく見事な作品に見とれた。

鑑賞すれば、シンパシーを感じさせるものがある。赤穂緞通も同じようなことが言えるのではないか。

市民の緞通を目にする機会を増やすことによって、もっと身近なものになり、それがファンを増やすことにつながるのではないかと考える。

そのようなことから、今秋の古緞通だけでなく、新作の赤穂緞通の展示会を企画すべきと感じる。展示会を開催するについては、出品数の確保のほか、実行委員会や運営委員会、あるいは審査委員会の設置など、多くの検討すべき課題があるが、赤穂緞通という伝統工芸品を伝承、発展させていくためには必要と考える。

また、赤穂緞通の公共施設への使用を検討すべきではないだろうか。

視察対応者

京都工芸美術作家協会　細見巧氏

（別紙）

調査項目

第 52 回日本伝統工芸近畿展

チケット

名刺

綴織

細見　巧

Takumi Hosomi

〒616-8094 京都市右京区御室小松野町13-6

13-6, Omuro-Komatsuno-cho, Ukyo-ku, Kyoto 616-8094, JAPAN

TEL & FAX 075-463-9395 MOBILE 090-7098-9405

（別紙）

調査項目

第 52 回日本伝統工芸近畿展

写真